



令和6年11月27日

12月調布幼稚園だより



園長 山形美津子

『たくさんの経験を積み重ねて』

朝晩、寒さが厳しくなり、冬の到来を感じる今日この頃です。子どもたちは天気の良い日は、園庭やグラウンドで元気いっぱい体を動かして活動しています。

12月8日（日）には2学期最後の大きな行事となる『表現ステージ』を行います。子どもたちにとってはとても大きな舞台であり緊張の連続だと思いますが、行事をやり終えた後には、やり遂げた喜びや自信を感じることができ、一人一人の成長につながる貴重な経験になると確信しています。

『表現ステージ』は、子どもたちの1年間の活動の集大成であると同時に、大切な学びのある舞台でもあります。現在、予行を目前にして、それぞれの学年の出し物が形になってきました。元気いっぱいに踊ったり、大きな声でセリフを言おうとしたり、劇の役になり切る動きを頑張っていたり、子ども自身が『表現ステージ』を楽しみにしている様子が手に取るように分かるようになりました。

『表現ステージ』の発表に向けて、子どもたちがどのような練習を積み重ね、どのような努力をしてきたか等、子どもたちの学びの過程を保護者の皆様にお伝えするオリエンテーションの日を設けましたのでどうぞご参加ください。

さて、2学期は大きな行事の他にも、「起震車体験」、「こども音楽会」、「移動動物園」等々、様々な体験を積み重ねてきた子どもたちです。

先日、年中組は洗足池公園へ秋の遠足に出かけました。公園までは子どもの足では30分～40分かかりますが、集団で歩く時の歩き方がとても上手でした。公園では、クラスの垣根を越えて探検に出かけたり、ドングリ拾いをしたり、集団遊び等をしてしたりして、楽しく過ごすことができました。

子どもたちの遊びの様子を見ていると、友達との会話がとても豊かになっていることに気付きました。なかなかドングリが見つからない友達に、「ドングリはあの木の下の方にたくさん落ちてるよ、葉っぱの下にもあるかもしれないからよく見てね」と教えてあげたり、幼虫を見つけた数人の子どもの会話では「この子（幼虫）生まれたてなのにお母さんとはぐれちゃったんじゃないの？かわいそうだね、みんなで守ってあげようよ」と幼虫の周りに落ち葉を集めてあげたり、「えさはどうする？」「何食べるのかな？土かな？」と友達と一緒に考えたりする姿もありました。

池にいるカモを見つけて、「おーい、僕たち来たよー」と声をかけ、遠くにいるカモに話しかける子、一人の子が♪あるこーあるこーわたしはげんき〜♪と、『さんぽ』の歌を歌い出すと、やがてみんなの声が揃い元気な合唱になりました。

子どもたちは、周りにいる友達や先生と一緒に生活することにより、心の成長を積み重ねていることが分かり、とても楽しい遠足となりました。

2学期が終わると約2週間の冬休みを迎えます。

ご家庭では年末の大掃除をしたり、お正月を迎える準備をしたりと大忙しの時期だと思います。きっと、子どもたちにもできることがあると思います。年齢や発達に合わせて、できそうなことを役割分担して、家族と力を合わせてお正月を迎えるようにして下さい。

また、お正月の挨拶やお正月のお料理のこと等、日本の伝統文化に触れる機会も多いことと思います。この機会にぜひ話題にしてみてください。

保護者の皆様、地域の皆様、この一年、ご理解とたくさんのご支援を頂きありがとうございました。

<洗足池公園にいる野鳥>

年中組が出かけた洗足池公園には多くの野鳥が生息しているそうです。マガモ、カルガモ、カワセミ、ヒヨドリ、アオサギ、コゲラ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ等、特に冬には多くの野鳥が観察できるようです。大きな樹木がたくさんあり、池や沼もあり、野鳥にとっては住みやすい環境なのでしょう。都内屈指の野鳥スポットだそうです。お休みの日に近場の公園をお子さんと一緒に散策するのもいいかと思います。

12月の目標

全学年

- 表現ステージを楽しむ。
- 北風の冷たさを感じたり、霜が降りている様子を見たりして冬の訪れを感じ、身近な自然に興味・関心をもつ。
- ダイコンや、カブ、小松菜、ヒヤシンスなど園内で育てているものに関心を持ち、生長を楽しみにする。
- インフルエンザ等の感染予防のため、手洗いうがいをしっかり行う。

年少組

- 身近な遊具や用具を使って、ごっこ遊びや廃材を使った工作を楽しんだりする。
- 思ったことを友達に言ったり、相手から聞かれたことに応じて答えたりする。
- 一緒に遊んでいる友達と同じことをしたり、寄り添ったりして一緒に遊ぶ楽しさをあじわう。
- 寒さに負けずに戸外で、先生やみんなと一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- お正月が来ることや、年末年始の過ごし方を知る。



年中組

- 身近な遊具や段ボールを組み合わせて、自分たちで遊びの場を作ったり、遊びに必要なものを作ったりして楽しむ。
- 友達との遊びの中で共感し合い、時には思うようにならないことを経験し相手にも思いや考えがあることに気付く。
- 伝承遊びや鬼ごっこ等体が温まる遊びを楽しみ、ルールのある遊びを通して、体を使って思い切り遊ぶ満足感や充実感を味わう。
- お正月遊びを通して日本の伝統文化に興味をもったり、年末年始の過ごし方を知ったりする。

年長組

- コマや縄跳び、ドッジボールなど、自分のめあてに向かって取り組む。また、友だちとルールを考えたり、守ったりして一緒ににかかわり合って遊ぶことを楽しむ。
- 良いことや悪い事を自分で考えて、その場の状況を見て判断し、行動できるようになる。
- 新しい年を迎えるために大掃除をして部屋をきれいにし、一年の締めくくりという意識をもつ。
- お正月にまつわる話や、小正月を迎えるまでの体験を通して、日本の伝統行事に関心をもつ。

調布幼稚園の自然と子どもたち 「長い冬を超えて成虫する幼虫や蛹と越冬するカタツムリ」

顧問 外崎明美

秋とは思えないほど半袖で過ごせる程暑い日もあるかと思うと、セーターやコートが欲しいと思う寒さの日もあり、虫たちにとっても混乱をする日があるようです。アゲハの幼虫はいつもは黄緑色ですが、茶色で越冬するようです。蓋にぶら下がって蛹になったものは、飼育ケースの蓋が緑のため、緑のままです。

保護色に変身することで、木の色と同じ茶色になり鳥から身を守っているのですね。また、夏の間子どもたちを楽しませてくれたカタツムリも動きが鈍くなってきました。落ち葉を入れ越冬できるように準備しましたが、時折暑い日があると、動き出し、起きた時のために入れておいたニンジンやキュウリをかじった後があり、起きたり寝たりしているようです。カブトムシも卵を3つ産み、幼虫になりました。保護者の方にもまるまるした幼虫を頂き、朝昇降口前に出しています。最初幼虫の大きさにおっかなびっくりだった子たちも、私や保護者の方が手に乗せているのを見て、触ったり、手に乗せたりするようになりました。

成虫になるのが楽しみですね。カタツムリも春には目を覚ますでしょうし、アゲハの蛹も無事越冬して羽化するのが楽しみですね。長い冬にエネルギーを蓄え、変化し大きく羽ばたく姿が子どもたちの成長を思わせ、子どもたちの姿と重なります。

